



座談会後に記念撮影。左から小島さん、北島さん、遠井さん、前場市長、初山さん、武藤さん

明けましておめでとうございます 平成28年がみなさんにとってよい年でありますように



市長
本日は、「災害に強い結城をつくるため、私たちにできること。」をテーマに、皆さんから貴重なお話をたくさんお聞かせいただきました。結城市としても、今回の災害対応では反省し見直さなければならぬ部分がたくさんあります。例えば、現行の洪

北島
毎年「防災広場」という形で、市全体の防災訓練を年に一度開催していると思いますが、今回このような災害が起こったことをふまえて、今後より多様な訓練を企画していただきたいと思います。私たち市民も、まわりに声をかけて皆でいっしょに参加し、各地域の危険な場所などを地元の皆さんどうして話し伝えていただくことで、一人ひとりの危機意識も高まると思います。訓練の大切さを理解し、地域住民、そして市民全員が一つになることが、災害に強いまちになるということだと思います。

水ハザードマップにおいても、実際に水害が起こると危険な避難所があったように思います。この機会に見直し、より安全なものを早く市民の皆さんに提供したいですね。また、鬼怒川の河川整備についても、時間がかかるかもしれませんが、国や県と総力を挙げて取り組んでいきたいと思っています。

今後は、本日の貴重なご意見やご提案を参考にしながら、結城市がより災害に強いまちとなるよう尽力してまいりますので、皆さんにも引き続きご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

最後となりますが、本年が皆さんにとって、すばらしい年になりますことをお祈りいたします。



また、被害規模が大きくなると、より多くのボランティアが必要となります。現在、社協に登録いただいている地域ボランティアが約500人いますが、いざというとき、全てのボランティア活動がより円滑に行われるよう支援体制を見直し、日ごろから備え

武藤
結城市が災害に強いまちになるためには、民間活力を大

いに利用するべきです。災害が起こったとき、消防団や社会福祉協議会に限らず、建設業者や運送業者、医療・介護事業者など、地域に根差す民間活力をフル活用して、支援のネットワークを構築することが必要でないかと思ひます。例えば、社協が住民を避難所へ移送する際に、自身で所有している車両にも限りがあります。そんなとき

に、地域に運送会社があればその方々をお願いをすればいい。それだけでも輸送量は向上します。

普段から民間企業どうしの横のコミュニケーションを深めて、いざというとき、市を中心に民間が力を合わせられれば、相当なパワーになるはずです。民間企業にもできる役割を、さまざまな場面で発揮していきたいと思っています。

― 最後に、今回の豪雨災害の経験を生かし、結城市がより災害に強いまちとなるために、それぞれの立場からできることや市民一人ひとりがすべきことなどについて、お聞かせください。―

小島
今回の活動では、地域の方々に本当に助けていただきましたので、とても感謝しています。いざというとき、このような「地域力」が大切だということを感じましたので、日ごろからもつと地域住民の方とのコミュニケーションや交流を図って、今以上に地域

力を高めていければと思います。―

今回の経験を生かして、今後さらに消防団員として活躍していきたいと思っています。

遠井
社会福祉協議会でも、災害時の活動指針などを示した「地域災害救援支援計画」がありますが、今回の災害で、災害ボランティアセンターの設置にとられず、社協ができることや役割がかなり明確になりました。今回の反省をふまえて計画を見直しつつ、地域力を強化して情報収集や情報提供を円滑にし、どんな災害にも柔軟・迅速に対応できるようにしていきたいです。

自治会長が地域住民の安全のために尽くし、住民一人ひとりが自主的に行動できるようになれば、どんな大きな災害からも逃れることができるのではないかと思います。

自治会長が地域住民の安全のために尽くし、住民一人ひとりが自主的に行動できるようになれば、どんな大きな災害からも逃れることができるのではないかと思います。

また、10月に県立結城特別支援学校で行われた避難所開設訓練に、地域の自治会長として参加したのですが、陸上自衛隊や日本赤十字社の協力のもと実施され、学ぶことが多く、貴重な経験をしました。このような避難訓練を各地区単位でも実施し、防災マニュアル作成や研修会を開催するなどして、「地域住民の安全を地域で守る」ことが、これからは必要だと思っています。

